

# 平成27年度 学校自己評価システムシート (県立川口青陵高等学校)

目指す学校像	学舎のルールを大切にする様々な教育活動をとおして、心身ともに健全な生徒の育成に努め、生徒の社会的自立の基盤を養い、地域に信頼される学校
--------	---

重点目標	1 主体的な学びを取り入れた授業改善や教育課程の見直し等を手掛かりに、生徒の学ぶ意欲を高める。表彰制度等を活用し、生徒の向上心に火をつけ、伸びる生徒を伸ばす。 2 PTA等と連携して広報活動の質を高め、学校の魅力を効果的に発信する。 3 部活動を通じて自己教育力を身に付けさせ、社会的自立の基盤を養う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	14名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 4 日 現 在 )		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 4 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	本校には学習意欲が乏しい生徒がいる一方で、まじめに学業に打ち込みながら部活動や資格取得に励んでいる生徒もいる。これまでは授業規律を整え全体の底上げを図ってきたが、伸びる生徒を伸ばし切れていなかった面もある。 魅力ある学校づくりを進めるためには、引き続き学舎のルールを大切にしながら、授業改善や表彰制度の充実など生徒の向上心に火をつける仕組みを整え、伸びる生徒を伸ばすことが課題となっている。	①伸びる生徒を伸ばす取組 ②授業におけるイノベーションの推進	①「川口青陵アワード」を積極的に広報する。 ・資格取得を奨励する(漢検、ワープロ検、英検等)。 ・教育課程の見直し ②協調学習やビデオ撮影による授業研究を展開し、教員相互の学び合いの場を増やす。	①全校表彰される生徒数及び「川口青陵アワード」受賞生徒数の増加 ・資格取得者数(3級以上)の増加。 ②ビデオ撮影や協調学習による授業研究の実施回数 ・ビデオ撮影による授業研究→20回以上 ・協調学習による授業公開→5回以上	①「川口青陵アワード」受賞候補者は16名、卒業予定者の7.0%であり、試行実施した昨年度7.6%(20名)と同水準である。また、資格取得は以下のとおり ( )は前年度増減。 ・英語検定3名(4名減、2級1名) ・ワープロ検定89名(10名減) ・漢字検定52名(10名減) ②ビデオ撮影による授業研究は延べ26名で実施(5名増)。また協調学習による授業公開は9回実施。	B	川口青陵アワードについては引き続き積極的に広報し生徒の高校生活への意欲を高めながら、将来的には受賞者が10%を超えるようにしたい。 資格取得状況はやや伸び悩んでいる。学校全体で生徒の基礎学力を高めていく仕組が必要である。 協調学習については来年以降も授業公開を実施し、授業改善の流れを確実なものにしていく。
2	平成25年度の創立30周年事業、26年度の高P連での研究発表などPTA後援会の活躍は目覚ましい。 学校への関心は高まり活動への参加状況も上昇し、PTAでの交流等を通じて市内中学校でも本校への理解は深まっているが、生徒募集ではまだ苦労している。 PTAとの連携やホームページ等の充実を通して情報発信を強化し、本校の魅力を伝えていかねばならない。	①保護者の学校に対する充足度 ②中学校や保護者、塾等への情報発信強化による「入りたい学校」への転換 ③魅力ある情報発信の充実	①PTA後援会の協力を得て積極的な広報活動を行う。 ②塾等の関係機関への訪問数や学校説明会の実施回数を増やす。 ③PTAや学校説明会等のあらゆる機会にHPを紹介する。	①本校に入学させてよかったと感じる保護者の割合(入学満足度90%以上) ②部活動体験や学校説明会への参加者数及び入学志願倍率の増加(志願倍率1.15倍以上) ③ホームページへのアクセス数2%増(H26:月平均4300→4400)	①保護者アンケート(6月)で「本校に入学させてよかった」と答えている保護者は93.5%。 ②12/15付けの入学希望者の倍率は1.1倍であり、前年同期の倍率(1.0倍)を上回っている。最終志願倍率は1.09倍で前年度1.11倍と同水準。 ③ホームページのアクセス数は3/10現在で月平均7482件であり、昨年度の月平均4300件を大幅に上回っている。	A	本校PTA後援会は「心のカレンダー」等の家庭教育への支援の取組が評価され、今年度「教育ふれあい賞」を受賞した。PTA後援会の協力を得て、引き続き積極的な広報活動を展開したい。また、魅力ある情報発信に向けてHPを充実させるとともに、学校説明会、中学校や塾等の関係機関への訪問を強化していきたい。
3	昨年度から部活動の充実に本格的に取り組み、県大会出場を果たした部活動や数年ぶりに大会に参加した部活動が出るなど、活性化の機運が高まっている。しかし部活動定着率は増加していない。顧問主導で運営せざるを得ない面があるが、会議等が超過し放課後に生徒と向き合える時間が確保できない状況となっている。	①部活動への取組状況 ②教職員が放課後に生徒に向き合える時間の確保	①大会やコンクールに積極的に参加し活躍の場を増やす。また取組状況をHP等で積極的に示し活動の励みとする。 ②会議運営の工夫改善を図り、時間短縮を図る。	①部活動定着率及び各部活動のHP更新回数の増加 定着率H26:41%→50% HP更新回数年平均5回以上 ②放課後の会議時間の縮減状況	①生徒アンケート(12月)による部活動定着率は46.8%で昨年度(41.2%)を上回っている。また、部活動HPの更新回数は年平均5回以上を達成する見通し。(3/15で5.4回) ②放課後の会議による勤務超過時間は、12月末時点で前年同期に比べて65%減少。	A	部活動定着率は上昇傾向にあるものの、まだ過半数を超えておらず、単独チームで出場できなかったり、控え選手がいない状態で試合に臨んだりしている。広報活動の充実や教員が生徒の向き合う時間の確保など、定着率を高める取組を引き続き推進していきたい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成28年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>生徒の社会的自立の基盤を確立するためには、あいさつ、時間を守るなど社会的なルールを守る態度とコミュニケーション能力の向上が必要と考える。しかしながら、スマートフォン等に没頭してしまうことなどにより、コミュニケーション能力が低下したり、良好な人間関係を築くのが難しくなっているのではないだろうか。インターネットの適正な利用に向けて家庭に働きかけながら、指導に取り組んでほしい。</p> <p>「川口青陵アワード」は大変良い取組である。様々な機会に説明するなど、生徒や保護者に周知し、行動変容を促してほしい。</p> <p>PTA後援会の「心のカレンダー」等、家庭教育への支援の取組が「教育ふれあい賞」を受賞したことは高く評価できる。今後もPTA活動等を通じて学校と家庭の連携を密にして、開かれた学校づくりを進めてほしい。</p> <p>ホームページは年々よくなっている。今後はホームページの更新をメール配信システムで保護者に伝えるなどの工夫をするとさらにアクセス数が増えるのではないかな。</p> <p>教員が生徒に向き合う時間を確保するために、放課後の会議の時間を縮減してきたことは評価できる。現在、企業や大学でも、会議の縮減に取り組んでいる。今年度縮減できたことで良しとするのではなく、生徒に向き合う時間を確保できるよう引き続き放課後の会議時間の縮減に取り組んでいくことを期待している。</p>	